

府中市協働事業 第三者評価シート

事業名称	マイ・ベスト・チャレンジ！2017 ～家族、友人、グループで記録に挑戦してみよう～
事業実施者	NPO法人手のひら健康バレー協会 / スポーツ振興課
事業目的	運動をする市民の増進及び健康推進。
事業内容	生活圏内での講習会及び記録会の開催。
事業目標	市民が自主的に運動を行う。自主グループの誕生。

1 評価結論	B:協働事業として適切であるが、一部改善することで、更なる発展が期待できる。 時宜に適した事業であるが、双方が遠慮しがちである。役割を固定化せず、お互いの強みを理解し、いかし合うことで、スポーツ人口の拡大など更なる発展が期待できる。
2 事業について	高齢社会の到来に対し、幅広い市民の参加があり、今後ますますニーズが高まる事業である。運営ノウハウや経験を団体が蓄積しており、単独でも実施できるが、市の持つ知識の活用や会場面のサポートなどの環境整備等で市と協働する意義がある。
3 協働の広がりの可能性	多世代が関わることができる事業である。他課への働き掛けを市が行うことで、スポーツ人口の増加につなげていくとともに、体力・能力・年齢等に応じた市民の健康づくりなど、更なる協働の広がりに期待できる。
4 意見交換会を踏まえて	双方が遠慮しがちである。お互いに理解を深め、強みを共有することで、更に協働の可能性が広がる。
5 まとめ	会場確保等、物理的な支援だけではなく、他課との連携など側面的な支援を行うことにより、更なる事業の広がりが期待できる。

【評価の結論】A:協働事業として適切で優れていると評価できる。

B:協働事業として適切であるが、一部改善することで、更なる発展が期待できる。

C:協働事業としておおむね適切であるが、一部改善の必要がある。

D:協働事業として取り組むにはかなりの改善が必要である。

E:協働事業としては不十分であった。

府中市協働事業 第三者評価シート

事業名称	シンポジウム「もっと公園に行こう！」
事業実施者	ひな草の会 / 公園緑地課
事業目的	シンポジウムを通して公園を含む広い意味での府中の環境を学び、質の高い緑の空間作りを考える。
事業内容	①事例紹介 ②基調講演 ③府中市の公園の現状 ④パネルディスカッション
事業目標	協働で事業を開催することで互いの立場を尊重し、意見を出し合い新しい持続可能な環境を目指す。

1 評価結論	A:協働事業として適切で優れていると評価できる。 相互理解ができている。事業計画時から行程表を作成するなど情報共有を行いながら、共通の課題を認識し、今ある公園の課題解決や魅力ある公園づくりに向けて一体感をもって取り組んでいた。 双方が多く主体と接点をもつなど、多世代が関わるができる戦略をもつとともに、広い視野で事業を展開することで更なる広がりが得られることを期待する。
2 事業について	市立公園に限らない事例紹介や、パネリストとして行政が入ったことは評価できる。市民の気付きや知識の共有の場の提供につながった。 ターゲット層としても、公園の役割等の啓発として集めたい人が集まった。 地域特性をいかした魅力ある公園づくりの視点など、行政側が苦手としている視点をもつきっかけとなったことは協働の意義があるものである。
3 協働の広がりの可能性	自治会や他課との連携など、より多くのステークホルダーとの協働を広げることで地域コミュニティの醸成や魅力的な公園づくりが達成できる。双方が多く主体と接点を持ち、信頼関係を構築していくことを期待する。 市立公園に限らず、都立公園等を含めた広い視野で事業を展開することで、市民の気付きや公園づくりへの参加の一步につなげていただきたい。
4 意見交換会を踏まえて	市立公園と都立公園など、市内には様々な公園があり、防災機能を有する公園もあるため、他課を巻き込むとともに、多世代が関われる戦略をもつことで更なる広がりが得ることができる。
5 まとめ	双方が互いに課題を持ち、事業計画時から行程表を作成し、情報共有しながら取り組んでいた。多世代が関わるができるよう、継続的な取組を期待したい。

【評価の結論】 A:協働事業として適切で優れていると評価できる。

B:協働事業として適切であるが、一部改善することで、更なる発展が期待できる。

C:協働事業としておおむね適切であるが、一部改善の必要がある。

D:協働事業として取り組むにはかなりの改善が必要である。

E:協働事業としては不十分であった。

府中市協働事業 第三者評価シート

事業名称	市民協働啓発動画の制作
事業実施者	府中まちコム舎 / 協働推進課
事業目的	市の目指す「みんなで創る、笑顔あふれる住みよいまち」を実現するために必要不可欠な「協働」について広く市民に知ってもらうための啓発動画を作成するもの。
事業内容	市民協働啓発動画の企画・制作
事業目標	アニメーション動画で「協働」を紹介することで、「協働」について、市民により一層興味と親しみを持ってもらう。

1 評価結論	B:協働事業として適切であるが、一部改善することで、更なる発展が期待できる。 団体と担当課とのコミュニケーションが取れており、多くの人を巻き込みながら協働を広く知らしめるよう工夫をしている。 市として前例がないところに取り組むことができたことは協働の意義がある。完成した動画の活用方法について、ビジョンを明確にするとともに、具体的な内容を取り入れた今後を期待したい。
2 事業について	声優やキャラクター名の公募を行い、団体だけではなく多くの市民が参加の機会を得て、楽しく動画を作りあげている点が評価できる。 協働の手法は双方理解されているため、成果としても双方がプラスとなるよう取り組んでほしい。 協働という言葉が独り歩きしないよう、具体的な内容を取り入れながら今後を期待したい。
3 協働の広がりの可能性	他部署のマスコットを動画の中に登場させるなど、部署を超えた横の展開があった。 動画の活用について、他課のイベント等に積極的にアプローチするなど、更なる展開に期待したい。
4 意見交換会を踏まえて	協働への理解ができており、情報共有の重要性を知っているからこそ、もう一歩先に期待したい。 特に成果物の発表の場について、他課のイベントにアプローチするなど、市側の積極的な取組に期待する。
5 まとめ	成果物の活用方法をより明確にし、具体的な内容とするなど、今後を期待したい。

【評価の結論】A:協働事業として適切で優れていると評価できる。

B:協働事業として適切であるが、一部改善することで、更なる発展が期待できる。

C:協働事業としておおむね適切であるが、一部改善の必要がある。

D:協働事業として取り組むにはかなりの改善が必要である。

E:協働事業としては不十分であった。

府中市協働事業 第三者評価シート

事業名称	行政提案型協働事業ミニシンポジウム
事業実施者	特定非営利活動法人アビリティクラブたすけあい府中たすけあいワーカーズぼぼ / 協働推進課
事業目的	市民自らの力で進める協働のまちづくりを実現するための市民協働への意識や考え方の醸成に向けて、身近なテーマで話し合い、地域のつながりを図るもの。
事業内容	ミニシンポジウム(協働概要、事業事例紹介、基調講演、ワークショップ)の開催。
事業目標	市民協働に向けた意識の醸成と市民活動への参加の啓発。

1 評価結論	B:協働事業として適切であるが、一部改善することで、更なる発展が期待できる。 綿密な話し合いによる情報共有と相互理解ができています。 互いに努力しながら協働の視点を持ち事業を実施しているが、集客に課題が残った。 課題解決に向けた市側の積極的な取組や支援に期待したい。
2 事業について	ターゲットや目的の設定が難しい事業であるが、協働の視点を持ち、綿密な話し合いを行っていた。 広報も互いに努力するなど、協働の意義がある。 集客については課題が残ったため、テーマを精査するなど更なる工夫が必要である。
3 協働の広がりの可能性	自分事としてまちづくりに取り組む人を増やせるよう、市内のネットワークを更に活用することで、更なる協働の広がりが期待できる。
4 意見交換会を踏まえて	目的は達成しており、連携もできている。参加者を増やすための方策を市側が積極的に行い、支援する必要がある。
5 まとめ	相互理解ができており、綿密な話し合いにより連携しながら事業を実施していた。 結果を掘り下げるとともに、課題解決に向けた積極的な取組や支援を期待する。

【評価の結論】A:協働事業として適切で優れていると評価できる。

B:協働事業として適切であるが、一部改善することで、更なる発展が期待できる。

C:協働事業としておおむね適切であるが、一部改善の必要がある。

D:協働事業として取り組むにはかなりの改善が必要である。

E:協働事業としては不十分であった。